

第2回 2009年8月出発 参加者 ●坂本 大地さん、ホスト：東儀大学校

1. 応募したきっかけ

私は中学生の時から英語が苦手でした。しかし進学を進めるにつれて英語が大切だということに気づくことが出来ました。

私は元々話すのが好きだったので、また日本にいて行う英語の勉強より、人と会話することによって見出される英語の楽しさを知りたいと思っていました。その胸を教授に伝え、留学について相談したところ、今回の Summer Institute を紹介され、私の利に叶っていたので応募しました。

2. 事前準備

まず向こうの教授と学生にメールを送り、私が行う実験について双方と話しました。また実験を円滑に進めるために基板作りなど基礎的な部分は日本で終わらせて実験用のPCも準備して持って行きました。

私は韓国語をまったく学んだことがなかったので、韓国語の基礎が載っている本を買って1ヶ月程度読んでいきました。後は日英韓の電子辞書を購入し、なるべくコミュニケーションを取れる環境作りに勤めました。

3. 現地研修

基本的にコミュニケーションは英語でした。また週一回私と先生の一対一のミーティングが設置されており、その時に英語で今週の予定、先週は何をしたか話していました。学生とは私が使う設計ソフトの説明をしてもらい、物作りを進めていく上で分からぬところの相談にのってもらったりしていました。

研究室には部品を作る機械もあったので、作りたい部品があるとその都度学生に頼んでいました。必要な部品はネット注文、近くのショップに行ったりし、そのときも韓国学生と共に行動をしました。その結果私は韓国で一つのものを設計から製作まで行い作り上りました。

4. この研修を通じて得たもの

私がこの研修を通じて得たもので一番大きいと思えたの

は、英語を基本とする友達が出来たことです。やはり友達がいるから英語も勉強しようと思ったし、当初私が思い描いていた、留学することによって手にする気持ちを得ることができました。

韓国の技術・就職、学生の姿勢など韓国の学生と話すことによって様々な面を知ることができました。それ以外に感じたことは韓国の学生は日本に興味を持っている人が多く、日本を良く見ていると感じました。英語に関しては学生の意識が高く、話を聞くところによると小学生がとても力を入れていると聞き驚かされました。

5. 参加する人へのアドバイス

私はもともと英語が嫌いで、なおかつ日本でも英語は勉強していませんでした。しかし、英語が大切ということは心の中で思っていました。そこで、自分を追い込むことで英語を勉強すると思いこの企画に参加しました。

最初はやはりきつく、また語学留学でないために会話すらままならないのに物を作るということがプレッシャーになっていました。しかし、研究室のみんなが優しく私を迎えてくれて、英語が余り出来ない私にみんな毎日話しかけてくれました。

毎日のご飯もみんなが私を誘ってくれて一日も寂しいと感じたことがありませんでした。そのお陰で無事に物も作ることができ、充実した韓国的学生生活を送ることが出来ました。

私の留学の目的は英語の大切さを肌で感じるということでした。この留学を通して私は当初の予定通り英語の大切さを心から感じることが出来ました。私はその点については満足し、またたくさん話しかけてくれた先生、学生に感謝しています。

しかし失敗したと思う点もあります。それは英語と韓国語をもう少し勉強していけばよかったと思いました。韓国語は使わなくてもどうにかなりますが、やはり使えたほうが楽しかったと思います。また韓国語が出来なくとも、英語がもう少し話すことができたら、学生と日本語、韓国語を教えあうなど会話が楽しく、また広がります。

第2回 2009年8月出発 参加者
●坂本 大地さん、ホスト：東儀大学校

留学する前に英語が人並みに使うことができ、韓国語の読み方などの基礎を少しだけ勉強していればこの47日間を通して韓国語を話せるようになって日本に帰ってくることも可能だったと思います。そう考えるのもったいなかったと私は思います。なので、参加される方は騙されたと思って英語と韓国語を勉強してください。そして、向こうの学生とともに話して楽しんでください。

正直、韓国の学生はみんな真面目で話しかけにくいこともあるかもしれません。でも、勇気をもって話しかけてください。そうすることにより、自分自身の刺激になり、また韓国的学生の刺激にもなりとても良い効果を生むと思います。不安もあると思いますが、頑張って積極的にチャレンジしてください。

